

提 言 書

「新未来『創造』とくしま行動計画」
の評価結果及び「県民からの優れた
意見・提言」について



令和元年11月

県政運営評価戦略会議

は じ め に

県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）では、県政運営指針である「新未来『創造』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）について、主要施策ごとの達成状況の評価等を実施しております。

行動計画は、平成27年度から平成30年度までの4年間で計画期間が満了したため、今年度は行動計画の最終の評価、「総括評価」として、「平成27年度から平成30年度までの成果及び取組」を基礎としつつ、会議における委員間の協議の結果も踏まえ、総合的な評価を行いました。

また、とくしま目安箱等に寄せられた「県民からの意見・提言」の中から、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として、12件を採択しました。

ここに、評価結果等を「提言書」として取りまとめましたので、徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき、行動計画の後継として今年度スタートを切った『未知への挑戦』とくしま行動計画の最初の改善見直しに御活用いただきたい。

令和元年11月18日

県政運営評価戦略会議
会 長 石田 和之

目 次

	ページ
I 行動計画の評価について	1
1 評価方法について	1
(1) 評価の対象	1
(2) 評価の項目	1
(3) 評価の基準	1
(4) 評価の手順	1
(5) 戦略会議の開催状況	1
2 評価結果について	2
(1) 総括	2
(2) 基本目標ごとの評価結果の概要	3
(3) 基本目標ごとの主な意見	4
(4) 総括的，総合的な意見	5
(5) 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映について	6
II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について	7
(参考) 委員名簿	10

(別冊)「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シート

I 行動計画の評価について

1 評価方法について

(1) 評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（144施策）を評価の対象とした。

(2) 評価の項目

「平成27年度から平成30年度までの成果及び取組」を評価の項目とした。

(3) 評価の基準

次の区分を基本に、会議における委員協議の結果を踏まえ、A、B又はCの3段階で評価した。

平成27～30年度の成果及び取組		
計画目標を達成 (☆☆☆)	計画目標をほぼ達成 (☆☆)	計画目標を未達成 (☆)
A	B	C

(4) 評価の手順

担当部局があらかじめ作成した主要施策ごとの「評価シート」を基に委員の代表者が作成した「評価案」について、会議において全委員で協議し、その結果を取りまとめた。

(5) 戦略会議の開催状況

次のとおり3回に分けて開催した。

日程	評価を実施した基本目標
8月 2日 (金)	基本目標 1 及び 2
8月 9日 (金)	基本目標 3 及び 4
8月 20日 (火)	基本目標 5 から 7 まで

2 評価結果について

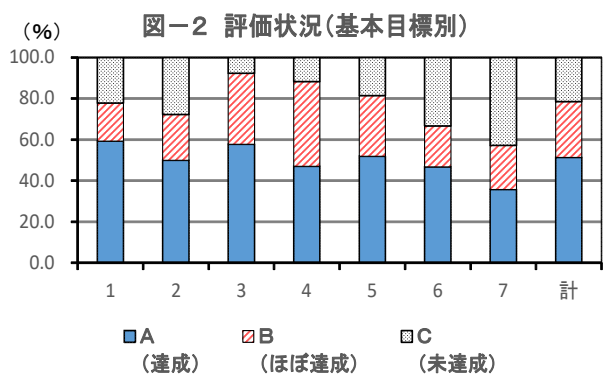
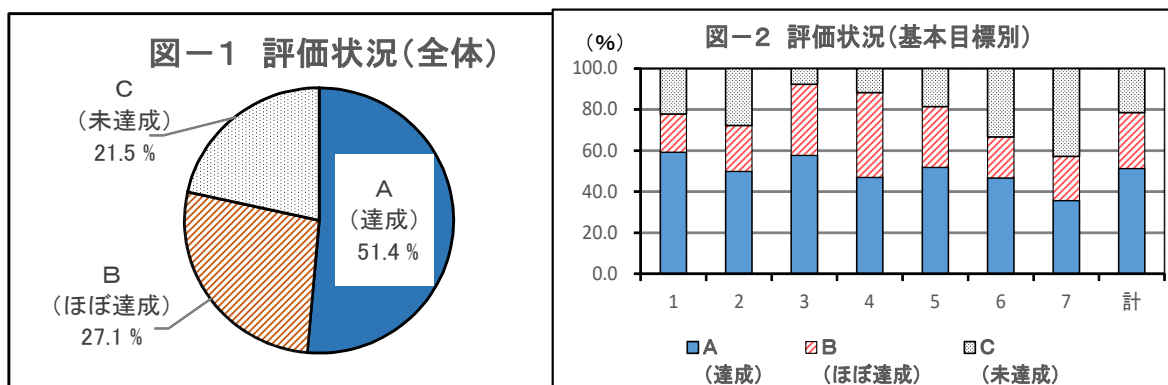
(1) 総括

今回の総括評価の結果は、次の表－1及び図－1のとおりである。C評価が全主要施策144のうち31、構成比にして21.5%と、計画期間の4年間で初めて2割を超えた。

表－1 主要施策の評価結果

「A（計画目標を達成）」と評価されたもの 74施策（51.4%）
 「B（計画目標をほぼ達成）」と評価されたもの 39施策（27.1%）
 「C（計画目標を未達成）」と評価されたもの 31施策（21.5%）

基本目標	評価区分						主要 施策数
	A 達成	(%)	B ほぼ達成	(%)	C 未達成	(%)	
1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	16	59.3	5	18.5	6	22.2	27
2「経済・好循環とくしま」の実現	9	50.0	4	22.2	5	27.8	18
3「安全安心・強靱とくしま」の実現	15	57.7	9	34.6	2	7.7	26
4「環境首都・新次元とくしま」の実現	8	47.0	7	41.2	2	11.8	17
5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	14	51.9	8	29.6	5	18.5	27
6「まなび・成長とくしま」の実現	7	46.7	3	20.0	5	33.3	15
7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	5	35.7	3	21.4	6	42.9	14
計	74	51.4	39	27.1	31	21.5	144
参考（平成30年度の評価結果）	81	56.3	35	24.3	28	19.4	144



次の表－2のとおり、初回評価である平成27年度実績以降のC評価の比率は6.9%、17.4%、19.4%、そして今回の21.5%と漸増している。評価の手法が大きく異なるので単純比較はできないが、前身の「いけるよ！徳島・行動計画」の6.3%、前々身の「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の5.1%と比して、厳しい結果となっている。

表－２ 過去の計画の評価結果との比較

計画 評価	オンリーワン徳島 行動計画(第二幕)		いけるよ!徳島・ 行動計画		新未来「創造」とくしま行動計画							
	H19～H22		H23～H26		H27		H28		H29		H30	
	主要 事業	%	主要 事業	%	主要 施策	%	主要 施策	%	主要 施策	%	主要 施策	%
A	427	70.2	583	77.7	105	73.0	83	57.6	81	56.3	74	51.4
B	150	24.7	120	16.0	29	20.1	36	25.0	35	24.3	39	27.1
C	31	5.1	47	6.3	10	6.9	25	17.4	28	19.4	31	21.5
計	608	100.0	750	100.0	144	100.0	144	100.0	144	100.0	144	100.0

これは、①評価の単位を「主要事業」ごとから「主要施策」ごとに大括り化し、評価対象数を減らしたこと、②評価の基準の基礎を「数値目標達成状況(☆)」に置き、「数値目標の達成度」が80%未満の△(未達成)が主要施策全体の評価を引き下げる効果を明確化したことの2点を、前身の計画までの評価の手法から大きく変更したことによるものであり、評価方法の厳格化、客観化の現れであると考えられる。

一方で、会議において、担当部局との質疑応答を踏まえた委員間協議等により、機械的な評価を上回る評価に変更した主要施策もある。これも、ある年度において目標値を下回ったが4年間の累計ではこれを上回ったこと等、事業の実情、数値目標の性質等を総合的に考慮した上での措置である。

このことは、戦略会議が、平成28年度に実施した初回評価以降、従来の「ABC評価判定重視型」から「委員からの提言重視型」へ軸足を移し、過去の実績のみならず施策の現状や将来性をも加味して評価しつつ、事後の施策の改善見直しにつながる意見を引き出す「未来志向型の政策評価」を実施するとしたことの一環である。

(2) 基本目標ごとの評価結果の概要

基本目標ごとに評価結果を概観すれば、C評価が20%を超えた基本目標が1, 2, 6, 7の4つあり、特に6と7は平成29年度実施の第2回(中間)評価から高止まりしている。教育、スポーツに関しては、次代を担う子どもたちの可能性に直結する課題であり、委員からも意見が出されている分野である。

7つの基本目標全体で見ると、今回を含め3年以上連続してC評価の主要施策は144のうち13(9.0%)、そのうち4年連続は3(2.1%)となっている。「3-5-8人と動物がともに暮らせる地域づくり」、「6-2-2充実した学びの推進」、「7-4-3生涯スポーツの推進」がこれであり、「総合型地域スポーツクラブの会員数」等、4年間で一度も目標を達成できなかったものが幾つか含まれている。

(3) 基本目標ごとの主な意見

委員から、7つの基本目標ごとに、次のような意見が出された。

これらを含め、主要施策等に係る委員からの意見については、別冊の「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シートの委員意見の特記事項の欄に掲載しているので、「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しに際し、十分に参酌していただきたい。

基本目標1 「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

- ・ 移住・交流施策の推進については、非常に多くの取組がなされ、ほとんどの数値目標が達成されている一方で、主要指標である「転入・転出者数」をみると転出増加の歯止めに結びついていないので、これを食い止めることに焦点を当てた施策、取組等の再検証が必要ではないか。
- ・ 学生の学習、生活及び就職の支援をはじめとする様々な分野での「人材育成施策」は、ゆくゆくは徳島への貢献を期待してのものであるので、今後は「人材育成施策」と「県内定着施策」の密接化を一層図ってほしい。

基本目標2 「経済・好循環とくしま」の実現

- ・ 公共部門による民間経済への各種支援は、既存の企業等を守ることもさることながら、これからの新しい人、企業、産業に対する支援が一層重要であると考えられるので、今後はそちらにも積極的に力を入れる必要がある。
- ・ 農林水産分野の人材育成が、「国の重要文化的景観」に認定された上勝町「檜原の棚田」や伐期を迎えた「徳島の木」など、放っておけば失われる「目の前の資源」の保全や活用につながって、地域経済も回っていくようなマネジメントをしてほしい。

基本目標3 「安全安心・強靱とくしま」の実現

- ・ 県立高校の防災クラブが全校に設置できたということだが、今後は、その在り方が、お仕着せではなく高校生の自由な発想で自主的に活動できるものであること、そしてそれを保障することが、次代を担う高校生の防災力を更に高めるために必要ではないか。
- ・ 交通事故による死者数をゼロに近づけるためには、道路構造を改良する際、急停止しやすくなるような路面加工を採用するのではなく、そもそもスピードが出せないような路面構造にするとか、思い切って車両の進入を禁止するといった発想の転換も必要ではないか。

基本目標4 「環境首都・新次元とくしま」の実現

- ・ 自然エネルギーの導入拡大については、そもそも都道府県単位で線引きすることが適切でない部分もあるので、他府県との連携も含めた広域的な普及策にも取り組むべきである。

- ・ エネルギーの地産地消については、その進捗度合いを測る指標として市町村数や地区数が挙げられているが、今後は、全体のエネルギー消費量に占める「地産地消エネルギー」の割合や「自然エネルギー」の割合等といった、より直接的な指標を導入してもらいたい。

基本目標5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

- ・ アクティブシニアの多様な働き方の支援については、「徳島県版『介護助手』制度」、「徳島県版『保育助手』制度」に引き続き、更なる活躍の場、輝ける場の開拓に期待する。
- ・ 高齢者の生涯学習のため、ケーブルテレビ網を活用した在宅での「徳島県活き活きシニア放送講座」が開かれ、毎年度70名前後の受講者があることは評価できるので、引き続き、内容をバージョンアップさせながら、高齢者の生きがいに寄与してもらいたい。

基本目標6 「まなび・成長とくしま」の実現

- ・ グローバル人材の育成については、外国語自動翻訳機の普及が目前の今、語学習得に力点を置いたプログラムはもはや時代遅れになりつつあるので、今後は、世界の人々に徳島、日本の文化や歴史を語るができる力を培う教育プログラムを整備するべきではないか。
- ・ トップアスリートの養成は、競技人口が減少し、有望選手が県外に引き抜かれる現状では難しいので、今後は、幼い頃からずっと徳島でスポーツを続けられる環境づくりとともに、有望選手を特定の学校に集結させるのではなく、学校間での競争を生む、切磋琢磨しながら勝ち上がっていくシステムづくりが必要ではないか。

基本目標7 「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

- ・ 大型クルーズ客船の誘致については、旅行企画会社へのセールスだけではなく、停泊地の決定について大きな権限を持っていると聞く船会社や船長へのセールスも怠らないようにするとともに、魅力ある港の整備に尽力してもらいたい。
- ・ 一層のインバウンド誘客のため、レンタカーよりも鉄道やバス、自転車での移動を好む一部の外国人の方にも利便性を実感してもらえらるような公共交通の充実を速やかに図ってもらいたい。

(4) 総括的、総合的な意見

行動計画全体に対して、次のとおり数多くの総括的、総合的な意見が出された。については、「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しにおける大局的又は技術的な指針の一つとして、念頭に置いてもらいたい。

- ・ これからの時代は、今まで以上に社会情勢の変化が激しくなり、4年先すら予測が難しくなってくるので、今立てている計画や数値目標を数年後には全く書き換えることもいとわれない、新しいチャレンジをどんどん組み込んでいける柔軟さを持って、今後の施策を推進してもらいたい。

- ・ 「環境首都とくしま」を標榜する以上は、他の地域に比べて独創的、先進的といえる施策を打ち出してもらいたい、今のところ上勝の「ゼロ・ウェイスト」以外に世間の目を引く取組が見当たらないので、徳島ならではの取組をどんどん創造していく必要がある。
- ・ 計画を立て、数値目標を設定するに当たっては、過去又は現在のデータを基に伸び率等を推計する「フォアキャスト」の観点だけではなく、4年後、あるいはもっと先の理想像を見定めた上で逆算する「バックキャスト」の観点が、今後一層大事となる。
- ・ 成果指標の中には無理に数値化すべきでないものも見受けられるので、数値以外での成果の測定や他の指標への変更も含め、正しく事業の目的・目標との関連性を持った成果指標の設定に努めてもらいたい。
- ・ 国策そのものや、国策に準拠した事業も含まれているが、あくまで本県の総合計画なのであるから、国の要請に従った取組内容や数値目標、年度工程等に縛られるだけではなく、本県の実情を踏まえた、地に足の付いた独自の考えがもっと見えていてもよいのではないか。
- ・ 今後の教育に係る計画には、今の子どもたちに将来どういう大人になってもらいたい、どういう大人になって徳島に戻ってきてもらいたいという視点とともに、子どもたちの可能性を一層高める、これまでの常識や先例にとらわれない教育方法も果敢に取り入れてもらいたい。

(5) 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映について

P D C AサイクルのC (CHECK)は「評価」と言われるが、その内実は「効果検証」である。A B Cのラベリングは、施策の進捗状況を分かりやすく示す上で有用であるが、そのこと自体が「効果検証」の核心ではない。ここでいう「効果検証」とは、①数値目標の達成状況を確認し、②そのうち未達成のものを洗い出した上で、③未達成の要因を探り、④その要因を生む課題を明らかにし、⑤その解決の糸口を見いだすことであって、ラベリングはまさに端緒(①及び②)、つまりは論点整理のための手段に過ぎない。

このような認識の下、各分野から選出された委員で構成する第三者機関として、これまで、委員からの提言に重きを置いた未来志向型の評価を4年度にわたって実施し、数多くの提言を行ってきた。今年度の主なものを(3)及び(4)に掲載したほか、それ以外のものを別冊の「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シートにも掲載しているので、これらの中から一つでも多くの提言が、令和の時代を導く羅針盤である新たな総合計画『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の進化に寄与することを願う。

Ⅱ 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

主に平成30年7月から令和元年6月までの間に「とくしま目安箱」等に寄せられた意見・提言のうち、次の12件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	提言先	項目	意見・提言の内容
1	目安箱	徳島県の今後のイメージ戦略について	<p>徳島県の今後のイメージ戦略として、体験型スポーツを県を挙げてのコンテンツとして取り上げるべきだと考える。</p> <p>県として、各地で行われているスポーツのマップ作りやツアー企画、大鳴門橋を通ってのサイクリングコース構想があると聞かすが、各地のサイクリングコースの整備や、山間部にはクライミングできる場所やハイキングコースの整備をしてはどうか。</p> <p>徳島県が先駆けて徳島スポーツパーク構想を発信し、阿波おどりなどのインバウンドツアーに結びつけばと思う。</p>
2	目安箱	食品ロスを減らすウェブサイト作成について	<p>飲食店で余った商品を定価より安く提供するというウェブサイトがあるが、主に首都圏の店舗に限られている。そこで、徳島版の同じようなサイト製作を提案する。</p> <p>年間何トンの食品ロスがあるだとか、国連援助量の倍だとか聞いても、それを実生活の中で意識して過ごし、かつ、行動することは容易ではない。しかし、こういったサイトがあれば、飲食店の商品を低価格で購入できるため、県民自らすすんで行動し、結果的に食品ロスを減らし、社会貢献につながる。</p> <p>また、それにより、県民全体の食品ロスに対する意識の向上も推進できると思う。</p>
3	目安箱	麺フェスの開催について	<p>徳島には、徳島ラーメン・半田そうめん・鳴ちゆるうどん・祖谷そばなど、様々な種類のご当地麺が存在する。しかし、これらの有名店を巡ろうとすると時間とコストがかかるため、各麺の有名店を集めた麺フェスタを開催してほしい。</p> <p>現在、B級グルメなどのご当地のグルメが流行っているので、この機会に、徳島の認知度を広める活動を行うと良いのではと考える。</p>

	提言先	項目	意見・提言の内容
4	目安箱	徳島オリジナル補給食の開発について	<p>今や四国最大規模のイベントに成長したとくしまマラソンや、ビルドアップ事業により更なる強化が期待される自転車王国とくしま等、徳島県の種々の取組によって、スポーツレクリエーションの気運が高まりつつあると感じている。</p> <p>そこで、提案として、地元の特産品などを使用した徳島オリジナルの補給食を開発し、イベント等で販売してはどうか。試合での使用はもとより、土産品としても人気が出るのでは。</p> <p>阿波ふうど協賛企業やベンダー、大手製薬会社などと共同開発すれば、栄養素や味にこだわった地場感のあるすばらしいものができあがるのではないかと。</p>
5	わくわくトーク	将来の進路としての農業について	<p>女性や若者が将来の進路を考えるときに、選択肢の一つとして農業が候補に挙がるような状況、農家出身でもなければ畑も施設もない人でも就農しやすい環境づくりが必要ではないかと。</p> <p>学校の就職支援課での紹介や求人情報サイトへの掲載によって若者にも情報が届くようにすれば、また、農業にトライしてみたいという人への待遇保障や社会保険も整備していければよいと思う。</p>
6	目安箱	ブロック塀問題について	<p>大阪の地震でブロック塀が問題となっている。行政は県民への模範となる塀のあり方を考えていくべきである。</p> <p>徳島独自の藍色のフェンスや県産材を活用した木製の塀、コンクリートブロックの場合も地域の子どもや住民に絵を描いてもらったり、控え壁を設けない高さにして外側土地に植栽を植える、RC造の壁は意匠を凝らす、町並みが優れた地域には築地塀等、日本古来の壁を採用する。</p> <p>まずは、県、市町村には補助金、県民には公募型抽選での補助を採用するなどして、全国に誇れる徳島独自の塀の政策を設けるべきである。</p>
7	アイデア募集型パブリックコメント	徳島に興味を持ってもらうための体験学校の実施について	<p>「夏の徳島体験学校」として、夏休みの1週間程度、県外の小学生を受け入れてくれる家庭を募り、虫取り、水遊び、畑仕事、藍染め体験、阿波おどり等、徳島ならではの夏を体験してもらってはどうか。</p> <p>これにより、将来、その子どもたちが成長し、進路を選ぶときに、徳島で就職したいという思いを持った人が出てくることも期待できる。</p>

	提言先	項目	意見・提言の内容
8	わくわくトーク	小規模農地の貸出しマッチング等について	<p>県外からの移住者等、個人が農地を借りることのハードルが高い。地元の人が管理に困る耕作放棄地の活用のためにも、小さな農地の貸出しのマッチング策が必要ではないか。</p> <p>また、若者が、やる気とアイデアさえあれば裸一貫で移住して起業できる小規模多品目農業、六次産業化まで見据えた新しい農業の可能性を切り開くための支援策をお願いしたい。</p>
9	わくわくトーク	にし阿波地区での「雑穀サミット」の開催について	<p>神話の時代から穀物と由縁のある阿波の地で、スーパーフードとして注目されていくであろう雑穀に焦点を当てた「雑穀サミット」を開催してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産現場を動画等で紹介 ・新しく健康志向な料理方法を考案して試食 ・雑穀を生産する日本各地、世界各国をつなぐ。 ・サミット後も、農業体験、農泊ツアーを企画、実施 <p>にし阿波の急傾斜地農法を守り、継続することの大切さ、「雑穀の未来」を語り合うイベントを、官民の協力、アイデアで実現できればよいと思う。</p>
10	目安箱	高齢ドライバーのブレーキ踏み間違い防止について	<p>新聞記事によると、高齢ドライバーによる交通事故が増えていることを受け、東京都がアクセルとブレーキを踏み間違えた際に急発進を防ぐ装置の取り付け費用を補助する方針を表明した。</p> <p>私の親も高齢ドライバーなので、こうした装置をつけてあげたいが、公的な補助がなければ費用が高額なため難しい。ぜひ検討してほしい。</p>
11	アイデア募集型パブリックコメント	これまでのスポーツ強化策の見直しについて	<p>有力選手を特定の高校に集めるとか、ジュニア期から発掘してトップレベルの競技者に育成するという方法は、才能がたまたま開花した子のみを選抜するだけで、人材の「先細り」になる。</p> <p>ジュニアには、正しい体使いと知識の下で多競技を楽しませつつ、巧緻性も高めさせることが、また、成績優秀者だけではなく、挑戦したい者、やる気のある者もチームに混在でき、選考会へも出場できるようにすることが、底辺の拡大、全体のレベルアップにつながる。</p>
12	アイデア募集型パブリックコメント	徳島県防災エキスパートの活用について	<p>県職員（土木職）OBで構成する「徳島県防災エキスパート」をもっと活用した施策を検討してもらいたい。現状は、災害時の被害速報のみを業務としているため、ほとんど実績がない。せっかくの経験則や暗黙知が埋もれているのはもったいない。</p> <p>例えば、平常時には河川の巡回・点検への参加、発災時には現場指導など、幅広い活動ができる組織を目指してもらいたい。</p>

(参考) 委員名簿

	氏 名	現 職 等
会 長	石田 和之	関西大学 教授
副会長	阿部 頼孝	徳島文理大学 名誉教授
委 員	伊庭 佳代	(一社) 美馬青年会議所 まちづくり委員会 委員
〃	植田 美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問
〃	加藤 研二	阿南工業高等専門学校 准教授
〃	近藤 明子	四国大学 准教授
〃	坂本 真理子	NPO法人郷の元気 副代表理事
〃	田村 耕一	(株) 阿波銀行 地方創生推進室 参事役
〃	鳴滝 貴美子	和田島漁業協同組合女性部 部長
〃	南波 浩史	徳島文理大学 教授
〃	久岡 佳代	かいふの木の家 事務局長
〃	藤原 学	(一社) 徳島県労働福祉会館 理事長
〃	榊本 久実	税理士
〃	三木 潤子	親子ふれあい教室 みきはうす 経営